

「シメオンの賛歌」

2015年04月22日

ルカによる福音書 2章25節～35節。そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり／この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、／あなたの民イスラエルの誉れです。」父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするためにと定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。——あなた自身も剣で心を刺し貫かれます——多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

マリアの清めの期間が過ぎたので、ヨセフとマリアは幼子イエスを連れて、律法の規定通りに、いけにえを献げようとエルサレム神殿に上った。神殿にシメオンという人がいた。彼は信仰の篤い人で、メシア（救い主）に会うまでは、決して死なないとお告げを聖霊から受けていた。幼子イエスを連れて両親とシメオンが境内で出会った。この時、シメオンは幼子イエスを腕に抱き、神を讃えて言った。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり／この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、／あなたの民イスラエルの誉れです。」シメオンは、この目で幼子イエスを見、メシアを与えられたことを知ったので、安らかに去れると言う。これを見、これを経験したから、もう死んでもいいと思うことがあるだろう。シメオンの年齢は記されていないが、おそらく老人であろう。老シメオンはメシアを待望し、今そのメシアに出会った歓喜の声を上げている。そして、幼子イエスは全ての人々に備えられた救いであり、異邦人への啓示となり、神の民イスラエルの誉れであると神を賛美する。

ヨセフとマリアは、幼子イエスについて語ったシメオンの祝福の言葉に驚く。すると、シメオンは二人を祝福し、母マリアに語る。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするためにと定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。——あなた自身も剣で心を刺し貫かれます——多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」幼児イエスは多くの人を倒れる者と立つ者に分ける。主イエスは人を右と左に分ける分水嶺のような存在となる。また、反対を受けるしるしとなり、時の権力者に敵対される。更に、母マリアは剣で心を刺し貫かれる。我が子イエスの十字架刑を目の前で見て、何もできず、心がずたずたに引き裂かれる悲しみを受ける。しかし、その死によって、人々が待ち望んでいた救いが明らかにされる。シメオンは、幼子イエスの神から託された使命をマリアに預言する。ルカは主イエスの生涯、そして十字架と復活に向かって書き進めようとしているが、「宮もうで」の時から、主イエスの歩まれる道筋をシメオンの預言に乗せ、福音書の導入を記している。